



「できた！」

No.50

文責 校長 木下和敏

令和5年度修了式…一年間お世話になりました

3月18日に卒業式を実施し、68名の卒業生が中学校への夢を抱いて大園小学校を巣立っていきました。今日は令和5年度修了式を行いました。明日からは春休みとなります。休みの間に、今年一年間の自分の歩みを振り返り、自分の成長を確認すると共に次の学年で取り組む目標をしっかりと考えてほしいと思います。

保護者の皆様には、今年一年間、大園小学校の教育活動に御理解・御協力をいただき、誠にありがとうございました。授業参観や日課の変更など、早めのお知らせを心掛けたつもりではありますが、不手際等があり、御迷惑をおかけしました。このことは次年度の課題として、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

【令和5年度修了式 校長講話から（一部抜粋）】

一年のまとめの修了式ですのでこれから心掛けてほしい「心と思い」の話をしたと思います。

社会がどのように変わっても変えてはならないものがあります。それは、人と人との心のつながりであり絆です。人は誰でも独りぼっちでは生きていけず、必ずそばにいて寄り添ってくれる人が必要なのです。そうした人と人との関わりや人としての心の在り方を教えてくれる、昨年度の卒業式で卒業生に読んだ詩を紹介しします。

あなたの心はどんな形ですか
 人に聞かれても答えようがない
 自分にも 他人にも心は見えないけれど
 ほんとうに見えないのであろうか
 確かに心はだれにも見えないけれど
 心づかいは見えるのだ
 それは 人に対する積極的な行為だから
 同じように胸の中の思いは見えないけれど
 思いやりは誰にでも見える
 それも 人に対する積極的な行為なのだから
 あたたかい心が あたたかい行為になり
 やさしい思いが やさしい行為になるとき
 「心」も「思い」も、初めて美しく生きる
 それは 人が人として生きることだ

この詩は今から13年前の2011年3月11日に発生した東日本大震災の後に、テレビCMで流れていたもので、詩人で作詞家の宮澤章二さんが作った「行為の意味」という詩です。

『心』は誰にも見えないけれど、「心づかい」は見える。『思い』は見えないけれど、『思いやり』は誰にでも見える。「思い」を積極的に行動に表していくことが大切なのだということを教えてくれています。「人を思いやる優しさ」と「行動に移す勇気」を持つ大園小学校の子どもになってほしいと思います。

横断幕を設置しました

校門前のフェンスに「とまって みよう みぎ ひだり」と記した横断幕を、子どもを守るネットワークに作成・設置していただきました。長崎市交通安全キャラクター「まもるンダ」を使用させていただき、子どもたちの交通安全への意識を高めたいとの願いが込められています。横断歩道での一時停止を心掛けてほしいと思います。



退職・転出職員の紹介

令和6年度の人事異動で、退職・転出する職員がいますのでお知らせします。大園小学校では大変お世話になりました。（敬称省略）

《退職》

※ この欄には本年度末で退職する方の氏名を記載しております。

《転出》

※ この欄には令和6年度人事異動で本校を転出する方の氏名を記載しております。